

東海市の文化財

案内文の番号は、地図の番号と同じです。

東海市の干拓新田

番号	新田名	築立年	備考
1	名和前新田	元禄8 (1695)	西大高村服部太左衛門願主 出資者丹羽郡稻置村神戸伝八郎
2	南柴田新田	宝暦4 (1754)	名古屋納屋町柴田屋新兵衛の町人請負新田
3	浅山新田	寛保元 (1741)	大高村山口弥八願主 名古屋万町浅井七左衛門出資 町人請負新田 犬山城主成瀬隼人正の遊漁地
4	北新田	文化10 (1813)	村請新田(大里・寺中・加家・渡内村?) 渡内村加藤宗右衛門
5	中新田	文政元 (1818)	同上
6	南新田	文政年間(1818~1829)	不詳
7	昇録新田	文政元 (1818)	渡内村加藤宗右衛門の町人請負新田
8	川北新田	安政元 (1854)	開発主大里村大村金蔵の町人請負新田、 別名金蔵新田
9	浜新田	寛延3 (1750)	大里村(庄屋蟹江太右衛門)の村請新田
10	後浜新田	寛政9 (1797)	同上
11	川南新田	嘉永4 (1851)	開発主大里村神野源兵衛の町人請負新田、 別名源兵衛新田
12	天尾崎新田	天保9 (1838)	木田村(庄屋平十郎)の村請新田、大里村との共同村請
13	成宝新田	天保元 (1830)	横須賀村の村請新田
14	天寶新田	明治43 (1910)	明治3年(1870)に台風のため、成宝新田及 び天尾崎新田が水没、その跡地に新しく完成 した新田
15	養父新田	寛政12 (1800)	藪村(庄屋杉江真十郎)の村請新田



位置図



⑧ 浜新田遺跡 市指定史跡 大田町川北新田

⑫ 妙法寺

国道247号線(常滑街道)沿い、市循環バスの北脇のバス停から少し東側に入ったところにあります。市内では唯一の浄土真宗高田派の寺院であり、同寺に伝わる阿弥陀如来像(市指定絵画)は南北朝期頃(14世紀)に描かれたものです。

⑤ 横須賀町北町組の山車蔵

横須賀町四ノ割

⑥ 横須賀町本町組の山車蔵

横須賀町狐塚
愛宕神社の南に、北町組の山車蔵が、文化センターの南に本町組の山車蔵があります。本町組の山車は、弘化2年(1845)の建造で、からくりは、壘が割れてそこから唐子人形が飛び出します。北町組の山車は、文化5年(1808)の建造で、からくりは唐子二体が台を回すと、台の上の唐子が太鼓をたたいたり逆立ちをしたりします。山車は、愛宕神社の9月の第4日曜日のお祭りに引き出されます。

⑦ 横須賀町八公組の山車蔵

横須賀町三ノ割
大教院の門前に八公組の山車蔵があります。山車は、寛政年間(1789~1801)に造られたもので、からくりは、唐子が大人の肩に止まって宙返りをして、大人の持っている太鼓をお囃子にあわせてたたきます。愛宕神社のお祭りに引き出されます。



君之浜碑

⑭ 玉林寺

横須賀町二ノ割
このお寺は、元亀天正(1570~1592)ころに開かれたといわれ、昭和の初めころまでは玉林齋といわれていました。天明3年(1783)の10月22日(旧暦)に、尾張藩の学者であった細井平洲がこのお寺で講演をしています。墓地には郷土の俳人で有名な村瀬大早、村瀬帯梅(1758~1826)のお墓があります。また、当地出身の力士で江戸時代に活躍した君之浜(1783~1858)の石碑があります。



横須賀町の各組の山車

⑨ 横須賀町円通組の山車蔵

横須賀町三ノ割
八公組の山車蔵から南西に入ったところに、円通組の山車蔵があります。山車は、文化2年(1805)に造られたもので、当初のからくりは、唐子が大人に矢を渡して、大人が弓を引きます。射られた矢が三角形的にあたる的の前半分が倒れて、そこから「ちゃんちゃん木偶」と呼ばれる小さな唐子が出てきて、的を舞台にして出たり入ったりします。長い間、修理不能となり見る事ができませんでしたが、平成12年に復元され、約100年ぶりにそのからくり芸が見られるようになりました。愛宕神社のお祭りに引き出されます。

⑩ 横須賀町大門組の山車蔵

横須賀町二ノ割
玉林寺の西方に大門組の山車蔵があります。山車は、寛政年間(1789~1801)に造られたもので、からくりは、扇と神楽鈴を持って舞う三番叟という人形が、お囃子にあわせてくると向きを変えるやいなや、扇と玉垣を備えた朱塗りのお社に変わり、また、もとの三番叟に戻ります。愛宕神社のお祭りに引き出されます。

⑪ 愛宕神社

横須賀町四ノ割
勤労センターの南東にある横須賀町方のお社で、もとはもっと南の玉林寺の近くにありました。このあたりは、馬走瀬と呼ばれる小さな漁村でしたが、横須賀御殿が造られるときに開発されて、その後、商業地として発展しました。9月の第4日曜日の祭礼には山車が奉納されます。境内には石造物などが並び、かつての繁栄を今に伝えています。拜殿には、俳人村瀬大早(1745~1820)直筆の板額などが掲げられており、文化活動も盛んであった町方庶民のようすをうかがうことができます。

⑬ 横須賀町丸通組の山車蔵

横須賀町三ノ割
八公組の山車蔵から南西に入ったところに、丸通組の山車蔵があります。山車は、文化2年(1805)に造られたもので、当初のからくりは、唐子が大人に矢を渡して、大人が弓を引きます。射られた矢が三角形的にあたる的の前半分が倒れて、そこから「ちゃんちゃん木偶」と呼ばれる小さな唐子が出てきて、的を舞台にして出たり入ったりします。長い間、修理不能となり見る事ができませんでしたが、平成12年に復元され、約100年ぶりにそのからくり芸が見られるようになりました。愛宕神社のお祭りに引き出されます。

⑫ 横須賀町大門組の山車蔵

横須賀町二ノ割
玉林寺の西方に大門組の山車蔵があります。山車は、寛政年間(1789~1801)に造られたもので、からくりは、扇と神楽鈴を持って舞う三番叟という人形が、お囃子にあわせてくると向きを変えるやいなや、扇と玉垣を備えた朱塗りのお社に変わり、また、もとの三番叟に戻ります。愛宕神社のお祭りに引き出されます。

